

# ギンブナ

*Carassius auratus langsdorfii*

コイ科



ギンブナ

## 名前の由来

銀白色を呈するフナの意。フナは「ナ」が魚を意味することはほぼ確かであるといわれるが、「フ」については「浮」の意とか、「あふみ（近江）」の上下が略されたものとか、水田や養魚池を指すとかの説がある。別名ヒラブナ、マブナ。漢字名：銀鯡

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

全長約25cm。尻ビレの起点付近より後方で、体高が急にすぼまるように小さくなる。背側は褐色、腹側は銀白色を帯びる。

背ビレ基底の長さは長い。背ビレと臀ビレの前縁に強い棘（＝トゲ）を持つ。

## 類似種と見分け方

キンブナ。

ギンブナの方が背ビレの基底長が長い。

## 一生

産卵期は5～7月（北海道）頃で6～7日でふ化する。

飼育条件下で、1年で全長8～10cm、2年で14～15cmになり、また1年で成熟したという。



タモ網で捕獲されたフナ

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
産卵期					■								
ふ化期					■								
幼魚期	■					■							
成魚期	■					■							

寿命は不明

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ  
ウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

## 生息環境・分布

河川の中流域の淵、下流域の全域、汽水域、湖沼などに広く分布。

川では流れの緩い淵、淀み、流入水路などで泥底の所を好む。湖の岸よりの所、水田とその用水路なども。

**分布：**朝鮮半島、中国大陸に分布。

国内では、北海道、本州、四国、九州、琉球諸島に分布する。

十勝地方では、十勝川水系の中・下流域、または河跡湖や湿原の沼に分布する。

## 食性

雑食性。植物性プランクトンや水生昆虫を食べる。

## 繁殖生態

産卵期は5～7月（北海道）頃。繁殖期のオスにはえらぶたと胸ビレに白い追星が現れる。

オスがいなくても他の魚の精子を刺激剤として発生できる、いわゆる処女生殖・雌性発生が可能であり、天然でも多くが処女生殖していると考えられている。

産卵場所は水草の繁茂する浅いところ。卵は粘着卵で、卵

径約1.4mm。産卵数は約7,000個（3回程度に分けて産卵）、6～7日でふ化する。

## 他生物との関わり

コイと一緒に飼うと、コイが中層にフナが底層に分かれる。産卵場所は水草の繁茂するところ。

## 興味深い話

■メスばかりでオスが見られないことが多い。関東地方、西南日本において、（オオキンブナを別にすれば）オスは全くいないと言われる。ギンブナの卵をウグイやドジョウといった他の魚の精子で受精させても卵は正常に発生し、メス親そっくりのギンブナとなるという。このとき精子は卵に入っても、ただのきっかけ作りをただけで、卵から排除される。（雌性発生という）

■他のフナの染色体数は100（2倍体）であるのに対し、

ギンブナの染色体数は150（3倍体）であるという。

■十勝地方のアイヌ語では（フナ一般に）「ランパラ」と呼ばれる。

## 配慮事項

産卵期に濁水の流入があると、粘着卵が酸欠を起こす場合がある。

流れが緩いところを好むので、流れの緩い淵、淀み、流入水路との連絡などが必要とされる。

産卵には淵とその周辺に繁茂するヨシなどの植物が必要である。

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（鳥水辺）  
類

（鳥草原・樹林）  
ワシ・タカ  
類

### 参考文献

「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲 監修、(財)リバーフロント整備センター編集、山海堂、1996

「野外ハンドブック・10 魚 淡水編」桜井淳史、山と溪谷社、1981

「検索入門 川と湖の魚①」川那部浩哉・水野信彦、保育社、1989

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984

「原色日本淡水魚類図鑑」宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦、保育社、1963（1976全改訂新版）